



飯能ロータリークラブ会報

唐竹雪化粧 A coat of snow covers Karatake

© photo by Isao Yoshida

“ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を”

RI会長
ロンD.バートン
2570地区ガバナー
中井眞一郎

継続 変革 簡素 充実

第2580例会 2014.1.29

—— ロータリー理解推進月間 ——

天候 晴 (NO.50-31)

会長 吉田武明 幹事 山岸敬司

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 杉田君、塩野君

例会場: マロウドイン飯能 〒357-0021 飯能市双柳105-8
☎(042)974-4000

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7
☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662
http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 吉田武明会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・卓話 浅見直行様

【会長報告】

浅見団長には、西川地区木材組合の役員もされ、非常にお忙しい中、来て頂きました。

【幹事報告】

- ・第9回理事会2/5開催
- ◎例会変更のお知らせ
- ◇所沢RC
 - ・2/11(火) 法定休日により取止め
 - ・2/18(火) 移動例会 西武ワルツホール所沢
 - ・2/25(火) 移動例会 ベルヴィ ザ・グラン
 - ・3/18(火) 定款第6条により休会
 - ・3/25(火) 移動例会 西武ワルツホール所沢
- ◇狭山中央RC
 - ・2/11(火) 例会取止め(定款6-1-C)
 - ・3/4(火) 例会臨時変更 家族同伴日帰りバス旅行
- ◇所沢東RC
 - ・2/13(木) 14(金)に振替 25周年記念式典
ベルヴィ ザ・グラン
 - ・3/13(木) 移動例会
 - ・3/20(木) 移動例会 企業見学

【委員会報告】

◎ロータリー財団委員会 細田(吉)君
齋藤文雄会員よりマルチプル・ポールハリス・フェローの寄付を頂きました(拍手)。

【出席報告】無断欠席なし 福島出席委員

会員数		当日		前々回修正
全数	対象	出席数	出席率	出席率
59名	6名	52名	87.72%	90.74%

【M U】

1/26(地区) 半田君

【S A A報告】

◎ニコニコBOX

- ・浅見飯能消防団団長様ようこそ。本日は卓話
よろしくお願ひ致します。吉田(武)君、山岸君
間邊君、山川君、小谷野君、柏木君、矢島(巖)君
小久保君、大河原君、新井君、半田君、本橋君
- ・飯能市制60周年に表彰されました。木川君
- ・結婚記念祝ひ有難うございます。

吉田(健)君、大河原君
・先週はインフルエンザに罹りました。安藤君
・早退 吉島君、半田君、神田(敬)君、大野君、本橋君
本日計31,000円、累計額805,144円。
◎5日例会当番は土屋(良)、田辺会員です。

【卓話】

講師紹介 市川(昭)プログラム委員長
S33年生まれ、55歳。S51年、川越高校、S56年、
明治大学商学部をご卒業。ご職業は名栗木材(株)、
製材業を営んでいらっしゃいます。消防歴、S60年、
名栗消防団団員。H5年、名栗消防団第2分団班長。
H9年、名栗消防団団本部部長。H11年、名栗消防団
副団長。H17年、飯能消防団副団長。H23年4月、
飯能消防団団長に就任されました。飯能消防協会
長より特別功労賞、勤続賞、埼玉県知事より消防功
労者表彰、等、数々の受賞をされております。

飯能消防団の現状と課題

飯能消防団団長 浅見 直行様

元団長の大河原、小久保様がいらっしゃるので余計緊張しているところです。第20号「かわらばん」を配付。題字は吉田(行)様に書いて頂いたものです。阪神淡路大震災から19年。瓦礫に埋もれた人に気付かず助けられなかった事を教訓に作った「命の笛」を、クロスワードで正解された方30名にお送りしています。今年は105通の応募。「消防団員さん、いつも有難う」「大きくなったら団に入りたい」等、はがきの感想を見て、また1年、力を貰ったようなところです。

飯能消防団は現在375名。H17年に名栗が合併。消防団は非常勤の特別職地方公務員という立場で年1回の報酬、5年以上の在籍で退職報奨金も頂けます。災害現場での怪我等の補償もあります。

昨年4月、消防署は広域化し、「埼玉西部消防局」が所沢を中心に狭山・入間・飯能・日高、5市79万人の大規模な組織としてスタート。双柳で何かあっても119番通報は所沢の司令室に行ってしまう。昨年3月までは宮沢湖そばの防災センター司令室で受けていました。所沢の「消防局」は最新システムの司令室。以前は入間と飯能の境には「応援協定」があって火災時に行き来していましたが、現在は境界線がなくなり、飯能の火災の時、一番に来て頂くのは新光の入間消防署西武分署と、状況が変わってきました。消防団は、市内の住宅火災であまり水を出さなくて済むようになった。今までは防災センター飯能日高消防署か稲荷分署だけだったので、我々が行って、1、2栓、消火栓から出す事がありました。広域化で市内の火災は少し軽減され、助かっております。ただ、山間地では、例えば今年1月、下名栗で合掌造りの家が全焼。石油ファンヒーターに給油する際、ネジが締まっていなかったらしく、逆にした時、灯油がバツと出て、スイッチは切ってあったが熱があったため燃えてしまったとの事。市内の消火栓なら入り組んでいて複数取れますが、名栗や吾野では上流から下流に100ミリパイプ1本だけ。1本取ってしまうと2本目は水が死んでしまい、やっと2本が出るような状態。名栗消防団の時から「消防団は自然水利」と言われていたので、ポンプを川に下ろして自然水利から2本、計4本で消火、延焼せず事無きを得ました。たくさん来て頂く広域化がダメというわけではないのですが、まだ我々消防団は自然水利に携わっていないと改めて感じたところです。

今、一番心配されているのは自然災害。昨年は台風26号で伊豆大島に土石流が発生。飯能市は山間地域でもあるため、台風による集中豪雨、ゲリラ豪雨等による土砂災害が心配されます。また、大きな地震が来たら消火栓は使えなくなってしまう。その時一番大事な「自然水利」を見つける事だと思います。阪神淡路大震災の時も、最後は消防隊が海から中継して火災を消した。従って、市内の分団の人にも、「どこでも下ろして水が出せるように」と強く言って、中継送水の訓練をやっています。市内の分団が山の分団と組んで山で中継したり。どうしても山間地域の人の方が中継や自然水利には強いのです。「ここは下ろせる／下ろせない」等。堀のような所ではビニールシートに水を溜めて水利を作る工夫を山間地域の人は行っている。市内の団員に見てもらい勉強してもらっています。いざという時のために普段から心



掛けてやらせて頂ければ良いのかなと思っています。

飯能日高の災害状況は昨年60回。飯能29、日高31。建物火災は飯能21、日高13。日高は「その他火災」(枯草等)の件数が多い。全国では4万4千件の火災。原因は「放火」が1番、5千件位。2番「タバコ」、3番「コンロ」、4番「放火の疑い」、5番「焚き火」。「放火」「放火の疑い」で全体の20%。飯能ではH21年から32件の放火、H24年に捕まった犯人は拘留中に亡くなった(24才)。昨年12月には富士見団地周辺で放火が5件発生しました。

救急車をまちの人はちょっとした事で呼ぶが、田舎の人は我慢強く、名栗分署までわざわざ車に乗せて来て連れて行ってもらうという事もあったらしい。名栗分署の開設はH12年。吾野分署もそうだが救急車が田舎に配備された事は有難いと思う。

女性消防団はH22年4月発足。日高は今年11年目。ある女性市議が「どうして飯能はないのか」と質問、武居団長の時に公募したところ15名が入団した。

男性団員は各地区で不足。S28年、全国で200万人だった消防団員は昨年87万人。女性団員は1万9千人。入間、狭山、青梅は今年度から女性団員を募集するとの事。若い人達が地元に住なくなってしまうというのが減少の理由にあるようです。他所から勤めに来ている人も入れるので、皆様の企業やご近所の方をお願いして頂ければ有難い。飯能は386名が定員で、15名位が欠員状態。役所に勤める人は40才までに5年の入団が義務という地区もある。飯能には34名の市役所職員が居ます。H8年以前、名栗では役所の人達で本部分団として1台車両を持っていた。役所で1チーム創って現場に行くのも大事かと思う。

昔、山火事の時に使っていた無線機は違法電波になるとの事で使えなくなった。違法ではない「高性能無線機を買って」とずっと言っていて、一昨年、団本部に5台購入して頂いた。これは1駅位飛ぶ。陸前高田市の分団長の新聞記事によると、東日本大震災では電話もケータイも繋がらず通信手段が無くなった。「独自の通信網を持っていなければダメだ」と私は防災会議等と言っていたのですが、団の消防車両に受令機(受ける機)はあってもこちらの状況が指揮本部に伝わらない。陸前高田市の分団長は団員を28人亡くし妻と長女を流された。消防団は津波の際、門を閉める役割があり団員をそこに行かせた。情報網があれば「大津波が来るから早く逃げろ」と伝えられた。それが残念でならないとの記事。団員を亡くし、もう消防をよそうと思ったが、人望厚く、団長になられたそうです。私も訴えなければと思いました。

昨年は自治体消防65周年、消防団発足120年。11/25東京ドームに消防団員3万7千人が集まり、両陛下のご臨席、安倍首相等のご出席の下、式典が開催。「また頑張らなければ」と感じました。

公助・自助・共助。普段から地域コミュニティーで「あそこにはどういう人が居る」というのを知っておく。消防団は地元に住るので、これからは「共助」が大事だと思っています。広域化になっても「地元は地元で守らなければ」というのがある。「地域防災のリーダーは消防団だ」との自負を持って活動していきたい。

いざと言う時に市民のお役に立てる消防団として活動して参りますので、今年もご支援ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

※次週の例会案内は省略。